

新高退通信 No.148

HP : shin-koutai.jimdo.com mail : shin.koutai@gmail.com



ゲート前に並ぶ100台ほどのダンプカー

戦後78年余を経た現在もなお、国土面積の約0・6%しかない沖縄県に、全国の米軍専用施設面積の約7割が集中し続けている。政府は、危険な米軍普天間飛行場を返還させることをせず、「移設」と称して県内の辺野古での新基地建設に固執している。辺野古の新基地建設には、沖縄県民が住民投票や選挙で何度も「反対」の意思を示してきた。「安保3文書」による南西地域の空港、港湾の整備強化、これによる沖縄の最前線基地化を許してはいけない。この春、新高退の女性3人が自主的に辺野古座り込みに参加したとお聞きし、寄稿をお願いした。(内山)



発行所/新潟県高等学校教職員組合/新潟市中央区川岸町2-11/TEL(265)4151/FAX(231)1036/1部10円(購読料は組合費に包含)

発行人 遠藤 丞

2024年6月1日 号外

新潟県高等学校退職者の会
事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
(高校会館内)
退職者の会専用電話
025-265-1110

※丸山睦実

新津支部(96)

3月4日〜7日まで3泊4日で、沖縄の暖かさや安いチケット代につられ、政治的なことは少しだけの旅に、友達と行ってきました。今から思うと、味わい深い旅でした。

1日め。順調に那覇空港到着。大型バスに乗り換え、90分のバス旅へ。賑やかな町も過ぎ、森を切り開いた立派な道路を走り到着。すぐ近くの3連泊予定の名護の宿へ。夕食は友人の座り込み仲間と再会を祝し、近くの沖縄料理店で。タコライス、沖縄、天ぷら、海ぶどうなど取り分けて、しめは沖縄そばを食べつつ、運動のことなど情報交換。
2日め。朝食後、バスで辺野古基地第2ゲートへ。降車すると、そこはもう基地。原発は大量の水が必要だから海のそば。

女三人 辺野古 座り込み旅



キャンプシュワブ正面ゲート前のガードマン (撮影: 剣・上も)

基地も海のそば。広大な基地の中に、かまぼこ兵舎など点在。日に3回の実力行使は朝・昼・夕の3回。座り込み用の椅子とボードはすでに用意され、「辺野古新基地反対」などと書かれている。ゲート前の座り込み開始。警護の若者達の揃いのユニホームで姿勢正しく歩きまわる様はまるでロボットのよう。マイクで「正門前の人



丸山さんと伊與部さん

は退去を。」とのアナウンス。トラックが列をなす。別の制服の屈強な若者より、軽々とごぼう抜き。人垣はまたたく間に解かれ、次々トラックは門から入って行く。それでも、デモ行進、シュプレヒコール、ボード掲示に加え、地元の人々の民謡と踊り。沖縄色豊

か。約1時間で朝の回終了。応援席のような席で待機しながら、情報交換など。そこに「沖縄退職者の会」の幟が目に入る。ここにも仲間がと頼もしく思った。バスで続々と近場の仲間到着。各々自己紹介。我等3人も。柏崎刈羽原発の再稼働の話。「教え子を戦場に送るな」に

続いている道と話したり、夕の回を終え、帰路に。3日め。昼の回までやって、後ろめたい気持ちで、地元の友人の案内で座喜味城見物と読谷村の「やちむんの里」焼き物巡り。感謝。

4日め。なつかしの我が家に無事到着。



剣さんと丸山さん

※ 剣美美子 (長野在住)

新津支部 (06)

去る3月4日、新津支部の丸山さん、新潟支部の伊與部さんと新潟空港から那覇に飛び、翌日、辺野古キャンプシュワブ正面ゲート前に立ちました。

元々、辺野古に通い続けている埼玉の友達があり、「ぜひ私も」と、昨年2月に彼女と行動を共にしたことが、今回に繋がっています。辺野古では土日を除いて毎日、朝9時、昼12時、午後3時にキャンプシュワブ正面ゲートから入るダンブプカーに抗議行動がなされており、沖縄県民のみならず、全国から有志が参加しています。私達は2日間でしたが、他に新潟市から来たという3人もいました。

抗議行動と言っても、ダンブプカーを阻止することは出来ないのですが、それでも一時ダンブプを止めて、ゲート前でシュプレヒコールや歌、踊り、プラカードなどで反対の意思をみんなで見せることはとても大事なことでと痛感しました。もし基地建設に反対する人の姿がゲート前から消えたとしたら、基地建設をみんなが容認したことになるので、行動し続けるこ

とが大切なんだと思うからです。

沖縄では今年緊張が高まっています。辺野古では埋め立て代執行が始まり、コンクリートミキサー車も次々にゲートにはいつていききました。また本島のみならず、与那国、宮古、石垣等の島々に自衛隊ミサイル部隊の配備が急速に進み、「台湾有事」を煽って島民に恐怖を与えています。その実態は3月末に上映された三上智恵監督の「戦雲」に丁寧映し出されています。沖縄を通して日本の現実が見えてきます。

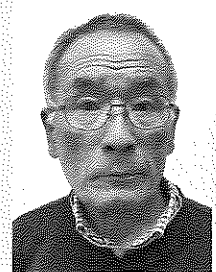
沖縄教の方々には辺野古基地反対運動に大きな役割を果たされています。高校退職者の会も連帯して現地に赴くことが出来たら素晴らしいと思います。

剣さんからは、原稿に添えてメッセージを頂きましたので、以下に掲載します。

『私も辺野古には2回しか行ってないのですが、来年3月4日、沖縄では「三線の日」で三線に合わせて辺野古のゲート前でも賑やかに踊り合う歌が披露されるそうなので、それに合わせて行く予定です。もしできたら沖縄の高教に連絡を取り、ある程度の人数で訪れたら喜ばれると思います。』

この人は今

新潟支部 松月秀一 (05)



北海道中薄白髪 第2回

(2艇のヨットの航海記)

明日は休養日で出航しないので、2人で一杯やることに。

夕方、丘の上にある『深浦観光ホテル』(青森県西津軽郡深浦町)の温泉に入れてもらい、帰りに『居酒屋』と書いた暖簾が下がっている小さな店に入る。5人も座ればきつくなるようなカウンターと3畳ほどの小上がりのある店内。

カウンターの中には誰もいない。ガラーンとしている。ただ、背を向けて小上がりのテレビに見入っているお客さんが一人いるだけ。

奥になにかあるような気もしないが、2人で奥に向かって「すみませーん」と呼ぶが音沙汰なし。お客さんがいるわけだから店が休みということはないだろうし、暖簾も出ている。

2人で顔を見合わせ「どうなっ

ているんだ」と言っていると、お客さんだとばかり思っていた人が我々の方に振り向き、びつくりしたような顔をして「あら、いらっしやい」と言うではないか。この人がこの店の『太っ腹な女将』だった。

我々とほぼ同年代と思われ、後に2人は親しみを込めて『耳の遠いおばちゃんのお店』と呼ぶようになる。

一品ずつ大皿に盛られた料理が並ぶカウンターに座り、生ビールの大を2つ注文した。

酒と夕食にありつけたことに安堵し、この旅の安全を願い乾杯した。

つまみは尾頭付きの鯛の焼き物・サバの煮物・つぶ貝の煮物・みずなの炒め煮などの山菜料理が豪勢に7〜8皿並び、その中から自分の好きな品と量を取り皿に取り、食べ放題とのこと。当然、ビールもすすみがちに。

松原さんは最後にご飯ものを食べないと気が済まないようで、「井物、何かないか」と注文するが、「そんなものはないよ」とそっけない返事。「ご飯はあるけど、私の夕食だから」とのこと。

しかし、しばらくすると「あなた、私のご飯半分やるから食べるか」と親切な提案があった。彼は感激してご飯を頂くことに。

2人で満足して支払いをしようとした金を聞くと、「一人3千円でいいよ」と商売気のない提示。「エーッ」。ビールだって何杯も飲んだのに。



江差から奥尻への途中、フェリーと行き交う

店の経営は大丈夫なのかと心配しつつも、ぶつきら棒だが家族のように暖かく接してくれる女将とその手料理に大満足で、2人ともほろ酔いの足で港の艇に戻った。

6月24日(新潟を出てから5日目)、深浦での2日目は休養日なので、コンビニでの買い物やコインランドリーで洗濯などとしてのんびりと過ごした。午後一艇のヨットが入港してきたので、舳いロップをとってやり我々のすぐ隣に係留した。千葉から来たSさんで80歳とのこと。夕食はSさんを誘い3人で岸壁にテーブルを出し、20時ころまで楽しんだ。

6日目の朝、どんよりとした曇り空の中、一昨日より天気・海況とも良くなるという予報なので、5時10分に出航する。Sさんは4時半頃に出航していった。今日は本州最北端の小泊港をめざす。

厚い雲に覆われて風も弱く波もない海を2艇で進む。9時頃より陽も差し、平らな海をのんびりと走る。津軽平野が右手奥に広がっている。昼前に小泊岬を回り込んで、竜飛岬の根元にある小泊漁港(青森県北津軽郡中泊町小泊)に入港。11時25分と、意外と早く着いた。

港内は漁船が多くどこに着けたらいいか迷っていると、岸壁にいた漁師が誘導してくれて舫いロープもとってくれた。ありがたかった。親切な対応に感謝し、お礼に新潟から持ってきたお酒を1本進呈したら、お返しにマグロの切り身をもらった。

7日目(6月26日)。いよいよ津軽海峡を横断して北海道へ渡る日だ。5時15分、2艇連なり快晴の平らな海に出る。右手に竜飛岬の海岸壁を見ながら気を引き締めて艇を進める。1時間ほどして海峡に出ると、今まで竜飛岬に遮られ止まっていた風が吹き出してきた。東寄りの4m前後の風だ。ジブセイルだけだったのをメインセイルも揚げ、フルセイルで風をとらえ6ノット前後のスピードで快調に走る。『WAVE』もフルセイルで後ろについてくる。自分の走りは見ることができないが、他の人のヨットが青い海を走る姿は見事な眺めだ。

8時頃、海峡の真ん中あたりで、米山登山中の新潟支部『山の会』のI氏より携帯に電話が入る。「今、どの辺を走っているのか」とのこと。「今、ちょうど津軽海峡の真ん中だ」と返事をす

る。I氏と同行のK氏やH氏とも同じ電話で話すことができた。自分もこの航海に出なければ、今日みんなと一緒に登っていたはずだ。

9時頃には海峡を渡りきり、松前沖を通過。左手横には松前小島も見える。後に風も落ちベタなきとなる中、松前半島の沿岸を逆潮のためろのろと北上し16時40分江差港に入ることができた。

昨日の朝に別れた千葉のSさんが岸壁で舫いロープをとってくれた。後で聞いたところによると、Sさんは深浦港を出て、直接松前港に渡り、今朝松前港から江差港に移動したとのこと。

この江差港でも、感動的な人の親切に接することとなる。

前回にも書いたが、港に入ると、食べることに次いで重要なことは風呂に入れるかどうかだ。

入港して艇の整備を済ませ、岸壁の近くにあるガソリンスタンドにポリタンを持って燃料を買って帰るとき、男性の店員に「10年前に来た時、坂の上に銭湯があったけど今もやっていますか」と聞く。要領を得ない。艇に戻るとき役場の脇を通るのだが、その役場から出てきた女性に「この上に銭湯があったはずだが、今もやっていますか」と聞いてみた。「その銭湯はなくなったが、そこから少し行った所の銭湯は今も営業していますよ」とのこと。後でみんなと行けると安心し、その女性にお礼を言って艇に戻った。給油や片付けなどしてしばらくすると、先程の女性が岸壁の脇の道路に車で来て「さつき、銭湯のこと聞かれた人いますか」と呼びかけている。「私です」と近づいて話を聞いてみると、帰宅途中に銭湯の前を通ると『本日休み』の看板が出ていたの、引き返して、そのことを伝えるに返られたとのこと。そして「近くの温泉に車で送りますので、よかつたら乗ってください」との申し出。帰宅時間なのに申し訳ないと思いつつ、せっかくだからと千葉のSさんも誘い、松原さんと3人で、港から6、7km離れたところにある『繁次郎温泉』に送ってもらった。その女性は町役場の職員の方だった。

おかげさまで温泉にゆつくりと浸かり、疲れを癒すことができた。彼女のやさしい心遣いに深く感謝しつつ、帰りは定期バスで江差の町に戻った。

自分はあるような場合、どうしただろうか。彼女のような行動をとったのだろうかと考えさせられた。出来事」だった。

8日目、沖に浮かぶ奥尻島を指した。4時30分『WAVE』と『オリーブ号』がまず出航、Sさんは少し遅れる。熊本から来ていた2人乗りの大型艇も奥尻に向かうとのこと。

天気は晴れて真つ青な海。波は1m弱でまあまあ海況、風は弱くジブセイルはバタつき、スピードはあまり出ない。途中、奥尻からのカーフェリーと行き交う。その後、風も出て波に叩かれたが、新潟・佐渡間より近く、10時30分には奥尻港に入れた。

10年前にはこの奥尻まで来ているので、非常に懐かしく、遠い故郷に帰ってきたような感覚が湧く。

2艇を岸壁に仮留めし、すぐに目の前の小さなホテル『想い出』(北海道奥尻郡奥尻町)に顔を出し、10年前にお世話になったお礼と目の前での係留をお願いした。また、お風呂もお願いした。

遅れて入港してきたSさんと3人で、岸壁にブルーシートを敷き車座になり小泊の漁師からもらったマグロを刺身にして、ビールを飲みながらの豪勢な昼食を楽しんだ。



奥尻島の岸壁にヨットを係留
目の前の建物が件のホテル

この奥尻までの8日間、一度も天候の悪化による足止めがなく順調に航海を続けてきたが、ここで、この後、5日間も足止めされることとなる。風や雨で海が荒れ、出航できないのだ。

この『出航できる・できない』の判断が、前日も書いたが、この航海が無事に終了できるかどうかにかかると重要な事項であって、当然のことではあるが、気を抜くことなく毎日神経を研ぎ澄ませてそれに対処している。

実は、航海に出る前「携帯はガラ系で、スマホは邪道」と固執していた。しかし、航海に出るにあ

たり、2艇の安全航行のためには正確な天候・海況の情報が不可欠で、それを得るためにはスマホが絶対的な必需品になる。あきらめて、出航する直前の5月下旬にドコモ店でスマホを購入した。早速、店員さんに頼んで『ニューベック』（航海用電子参考図）アプリをインストールしてもらった。

このアプリは海上保安庁の監修の下、『日本水路協会』が出しているもので、全国の海図・波高・風速・海水温・海底地形・潮流・潮汐・定置網設置位置・大型船航行状況などの各種データを、一部予報も含め、リアルタイムで提供しているものだ。前日の夜、当日の朝、航行中と頻繁にそのアプリを立ち上げ、状況を確認し、2人で相談して出航・停滞や針路変更・緊急避難などを決定していた。

このアプリの入ったスマホがあれば、今回の航海が無事にすんでいたとは思えない。

さて、5日間も足止めになった奥尻島だが、そんなに退屈はしなかった。地元の漁師で民宿も経営するO氏と知り合い、彼の車で青苗の津波記念館や神威脇温泉、ウニ丸公園、奥尻ワイナリー、島の北端の賽の河原公園など、毎日の

ようにあちこち観光案内してもらった。

奥尻での6日目（7/2）、新潟を立つて13日目の朝、数日間大変お世話になったO氏に見送られ、5時に2艇とも「お世話になりました」と手を振りながら岸壁を離れ、曇り空の下、波立った海を須築漁港めざして出航した。

10年前のロングクルージングは奥尻島までだったので、これより先は未知の海域で緊張が高まる。途中より、風も落ち波も穏やかになり薄日も差してきた。セイルはほとんど効果なく機走で行く。そんな中、渡島半島北部の沿岸に近づくと、前方に幾筋もの潮の吹きあがりが見えた。数頭のクジラが我々2艇の前を泳いでいるようだ。クジラに道案内されているような気分になる。

しばらくして、周囲を山に囲まれた須築漁港に入る。コの字の岸壁に囲まれた港湾部が、一か所のみ、何も無い小さな漁港だ。しかし、静かで山の中の湖に入り込んだような美しい港だ。10時15分の入港。距離が短かったので楽な航海だった。

(つづく)

2023年度末の定年退職者を祝う会は？

2023年度末に60歳を迎える組合員と2023年度末に退職の組合員を対象とする『2023年度第1回60歳達年を祝う会・第47回高校退職者激励会』が3月30日東映ホテルで、11人の退職者、新高教執行部、支部役員、新高退事務局を加えた25人の参加で開催されました。
定年延長のため定年退職者は存在しませんでした。



初めての「達年を祝う会」
於：東映ホテル2024年3月30日

日本教職員相互共済会（岡島真砂樹理事長）から以下の文書の掲載依頼が来ましたので、事務局で相談の上掲載することにしました。同会の事業終了予定を知らせるものです。

新潟県高等学校退職者の会の皆様へ

日本教職員相互共済会からのお知らせ

日本教職員相互共済会の事業終了は 2020年代の終わりごろになる予定です。

当共済会は、1982年に「退職者共済」を運営する組織として出発しました。以来、お支払いした共済金の総額は204億円を超えています。

一方、共済発足時には想定されていなかった超低金利・ゼロ金利が長期化しており、「お支払いいただいた掛金の運用利息で共済事業を行い、最終的には掛金相当額（基本契約の一時払掛金：以下同様）もお返しする」（改定退職者共済の場合）という当会の事業構造に無理が生じてまいりました。

このような事態を受け、当会は第71回通常総代会（2019年6月27日）において「会員の皆様に掛金相当額をお返しできるタイミングを見極め、その時点で事業を終了する」という基本方針を確認しました。

その後、3度に渡る「早期解約キャンペーン」を行い、経費節減にも努めました結果、事業の終了時期は2020年代の終わりごろになると想定しています。

1. 「退職者共済」は教職員共済と当会で分担してお引き受けしています

	教職員共済が管理	相互共済会が管理
改定退職者共済 (1981～1999年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約)	長期療養見舞金 (入院特約)
新退職者共済 (2000～2001年度)	死亡見舞金・退会見舞金 喜寿・米寿祝金 (生命特約)(入院特約)	長期療養見舞金 人間ドック給付

退職者共済は、左の表のとおり教職員共済と当会で分担してお引き受けしています。このうち事業を終了するのは、相互共済会が管理している部分（網掛け部分）になります。

2. 事業終了に際しては、お支払いいただいた掛金相当額を返戻金としてお支払いします（改定退職者共済の場合）

改定退職者共済については、加入時にお支払いいただいた基本契約の一時払掛金（一口5万円、二口まで）は、共済金支払いに必要な責任積立金として教職員共済と分担して管理されており、事業終了時には当会分の全額をお返しします。

なお、その際に教職員共済分を同時解約された場合、お支払いする返戻金の総額は「一口あたり5万円」を下回りません。（長期療養見舞金を2度お支払いした方については下回る場合があります）

3. 円滑な事業終了に向け、万全の準備を進めてまいります

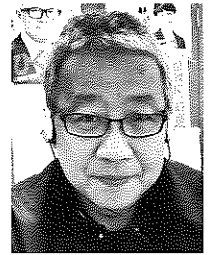
事業終了までの間、当会は従来通りの共済事業を継続します。共済事由が発生した場合、遠慮なくご請求ください。

今後、円滑な事業終了に向けて、混乱を招くことのないよう万全の準備を進めてまいります。

お問い合わせ	日本教職員相互共済会フリーダイヤル	0120-971-354
	教職員共済生活協同組合フリーダイヤル	0120-568-372

2024新高教の課題

新高教執行委員長 遠藤 丞



公務・教育をめぐる情勢

2024年度より公務員の定年延長の運用が始まりました(以後隔年で1歳ずつ定年年齢引き上げ)。雇用と年金接続の観点で14年度から運用されてきた再任用制度も「暫定再任用」と名称変更されて65歳定年制完成まで定年延長制度と併存します。定年延長と再任用のフルタイム勤務者は学校現場で同じ職務・職責を求められるのに、賃金水準は異なります(前者は定年前賃金の7割に対して後者は約6割処遇)、年収ベースで約130万円の差が生じるなど、職務給や「同一労働・同一賃金」の原則に反します。鳥取県や広島県では人事委員会が両者の処遇を合わせるべきとの勧告を出していますが、本県は「国と均衡」の一点張りです。

公務職場では2000年代以降激しい人員削減と賃金引き下げが繰り返されてきました。2011年の東日本大震災発生時には職員不足等で避難所の運営が滞り住民の生命等にも危機が及ぶ場面が多々現出しまし

た。教育現場では、06年の教基法改悪や免許更新制等の管理強化に加え、長時間労働の常態化など「ブラック職場」であることの社会的認知が進んだことも相まって、教員志望者の激減等で慢性的な教員不足に陥ってしまいました。精神疾患等を理由に職場を長期間離脱する教員や不登校児童・生徒が過去最多を更新するなど教育の現状は非常事態です。

加速度的に進行する人口減少によって本県を含む地方では自治体の多くが存続を危惧しています。昨年7月の県議会総文で県教委は「今後15年間で中学校卒業予定者7000人減。現状の校数維持なら全校平均2学級規模となる」との予測を公表し、新たな高校等再編計画を協議する有識者会議の設置を提起しました。2016年策定の10年計画「県立高校の将来構想」では学級減による学校の小規模校化ばかりが進行し、大規模校と小規模校間の教育環境や教育内容等の格差が生じています。県教委が本格的な統廃合に乗り出すということであれば広い県土を

有する本県において生徒の通学保障が万全になされなければなりません。国は高校の小規模校化への対応策としてオンライン授業配信や地域連携などを提起していますが、義務教育ではない(国がお金を出していない)ことを理由に、高校教育については基本的に地方任せのスタンスに終始しており、自治体の財政力の差が高校教育の格差拡大につながりかねません。

この間給特法をめぐる議論の中で、06年の教員勤務実態調査の結果、教員の時間外労働を手当化した場合約9千億円の財源が必要とのことで給特法廃止・時間外手当当化は無視されました。先日中教審特別部会は教員の働き方改革等に関して「中間まとめ(素案)」を公表しましたが、教職調整額を10%に上げるなど小手先の内容に終始し、またも給特法廃止はスルーされてしまいました。これだけ教育課題が山積しているにもかかわらず、2024年度の文科予算は5兆3千億円と前年度比0.8%の微増でした。それに対して、米国の下請けを無理強いされた国防費はGDP比1.6%増の8兆9千億円へと大幅増額となり今後も増額されようとしています。850億円の血税を国民が望まない改憲

のための国民投票に散在しようとして、数十兆円を超え未だに天井知らずの東電福島原発事故処理費用があるにもかかわらず原発再稼働を押し進めようとしたり、挙げ句には私腹を肥やすために裏金作りに現を抜かす与党政治家等々、教育、子育て、福祉等を軽んじ、国民の財産を外国にたたき売りし、未曾有の物価高に喘ぐ国民生活を顧みない政府には退場してもらうしかありません。

新高教第28期 本部執行委員会

執行委員長(専従)	遠藤 丞	離籍
執行副委員長	中村直樹	出雲崎
書記長(専従)	浅川智之	三条東
書記次長	猪腰浩明	新発田農業
執行委員 (支部書記長)	佐藤正成	巻総合
10人の所	山林 満	松代
2人欠員	佐藤良太	新潟向陽
	高津雅子	柏崎工業
	儀間亮平	柏崎工業
	監物 隼	十日町総合
	増子一彦	荒川
	石井一行	羽茂
会計監査委員	中川裕輝	村上桜ヶ丘
	高見砂織	新潟翠江
	青山智香子	新潟向陽

『活動日誌』・点描

■事務局会議 (11月1日) 『通信No.147』編集会議 ■事務局会議 (11月8日) 『通信No.147』編集会議 ■第60回護憲大会新潟集會 (11月11日) 県民会館 ■事務局会議 (11月21日) 『通信No.147』編集会議 (初校) ■事務局会議 (11月29日) 『通信』発送準備 ■『通信No.147』発送 (12月6日) ■事務局会議 (12月8日) 12・8不戦を誓う市民の集い ■平和・人権・民主主義の危機に立ち上がる会長岡研究集會 (12月9日) ■事務局会議 (12月20日) ■東電・柏崎刈羽原発差止め訴訟42回口頭弁論 (12月25日) ■事務局会議 (1月10日) 能登半島地震対応 ■新高教新春のつどい (1月13日) ■事務局会議 (1月17日) 2024年度以降の活動と役員体制について ■事務局会議 (1月31日) ■教育をよくする県民会議幹事会 (2月6日) 能登半島地震の学校被災状況について ■事務局会議 (2月7日) 『新高退文書配付』について ■事務局会議 (2月14日) 北陸ブロック代表者会書面会議について ■事務局

會議、サポートグループ會議 (2月21日) 2024年度の活動等検討 ■県退職者連合幹事会 (2月24日) 自治体選挙について ■事務局會議 (2月28日) ■『新高退文書配付』発送 (3月6日) ■事務局會議 (3月6日) ■教育をよくする県民會議幹事会 (3月12日) ■事務局會議 (3月13日) 支部活動に対する補助金集約 ■退職者に「加入のお願い」を郵送、2023年度北プロ代表者會議題に対する決議書提出 (3月25日) ■事務局會議 (3月27日) 電話會議 ■東電・柏崎刈羽原発差止め訴訟第43回口頭弁論 (3月28日) ■2023年度『第1回60歳達年を祝う会・第47回高校退職者激励会』 (3月30日) ■2023年度支部活動に対する補助金と「支部活動補助金」を送付 (3月29日) (石野)

編☆集☆後☆記

「女3人辺野古座り込み旅」は、丸山 (新潟)、劍 (新潟)、伊與部 (新潟) の3人の会員が、自ら辺野古新基地を許さない闘いに参加したという素晴らしい話。いわゆ

る動員ではない自費での抗議行動に頭が下がる。劍さんの呼びかけに応じたいという方は本部までご連絡を。

「この人は今」は、前号から『北海道中薄白髪』と称して書いて頂いている松月さんのヨット航海記。今回は津軽から目的地である北海道までの感動と心温まる話。人間、困ったときに受ける親切や何気ない心配りが、日常と違いより深く感ずるという証左。

「2024新高教の課題」は、人口減少がいかにあらゆる面で急激に影響を与えつつあるかということ。私たちが現職の時に県教委と闘ってきたこと、勝ち得たことなど簡単に吹っ飛んでしまい、わずか20年前には想像もできなかった事態が、私たちの周りにもひたひたと忍び寄ってきている。市町村消滅、生徒急減、教員不足、教育環境の不透明化、組合員減少、組織力低下など、新高教役員の苦勞が忍ばれる。



ご冥福を お祈りします

(括弧内数字は現職退職年度)

- 2023年
- 稲川 彰 さん (97) (長岡支部) 7・22
 - 丹羽 昭子 さん (01) (新潟支部) 6月
 - 近藤 善一 さん (96) (新潟支部) 7・22
 - 近藤 宰 さん (94) (新潟支部) 8・29
 - 瀧澤美知子 さん (90) (上越支部) 11・8
 - 前澤 吉雄 さん (95) (柏崎支部) 11・19
 - 小林 一敏 さん (09) (上越支部) 11・22
 - 新井 達明 さん (96) (県央支部) 11・24
 - 水島こずえ さん (12) (新潟支部) 12・2
 - 平林 光雄 さん (91) (上越支部) 12・2
- 2024年
- 南須原昭章 さん (02) (新潟支部) 1月
 - 石野 善司 さん (92) (上越支部) 1・3
 - 小林喜久治 さん (00) (魚沼支部) 2・12
 - 種村 幸夫 さん (92) (県央支部) 3・24
 - 脇野久三郎 さん (94) (佐渡支部) 5・12